

かしわ



二宮尊徳のお話 2

校長 北村耕一

幼児児童生徒・保護者の皆さんは、本校に二宮尊徳の像があることはご存知だと思います。平成28(2016)年11月1日発行の「かしわ」でも取り上げました。像があるのは馬淵先生ご夫妻の銅像の脇で、池と外側フェンスの間にひっそりと建っています。



2年前に二宮尊徳の説明については書きましたので、今回は省略しますが「二宮尊徳の勤勉さが、小・中学生の理想・手本と考えられた」と記しました。

この二宮尊徳について、20年ほど前、教育研究所に勤務していた時に、大学生時代の友人から連絡をもらったことがあります。その当時、その友人は栃木県真岡市の中学校に勤務していたのですが、総合的な学習の時間で地域に関する調べものをしていて、二宮尊徳がでてきたようです。友人は「横須賀市に二宮尊徳に関係する資料はあるのか？」と聞かれ「二宮尊徳の像がある学校はあるが(=久里浜中学校)、二宮尊徳は小田原市出身だから資料はないと思う」と答えたことを覚えています。

何故、栃木県と二宮尊徳に関連があるのか？とその時は思いませんでした。そこで今になってインターネットで調べてみたところ、「二宮尊徳、生家は小田原藩の豊かな地主であった。(中略)その後、小田原藩家老服部家の財政を再建して藩に用いられ、藩主の分家である下野国桜町領(真岡市南部付近)再興を

No. 3 平成30年5月14日 幼稚部の五月人形

命じられた。1823年、一家をあげて桜町領に移り住み、以後、その死まで30数年間、栃木県での農村復興に取り組んだ。(中略)尊徳の説いた『報徳仕法』とは、全ての階層の誰もが誠実に努力を積み重ねれば報われるという実践的な仕法であったことから、勤労を尊ぶ国民性と相まって、今日に至るまで多くの人たちによって継承・実践されてきた。栃木県内には真岡市の桜町陣屋跡、今市市の尊徳の眠る如来寺、報徳文庫などの他、各地に『二宮掘』などの尊徳の足跡が残されている。」ということがわかりました。

また、昨年、愛知県豊川市の知人が送ってくれた荷物の中に入っていた中日新聞には、薪(たきぎ)の代わりに魚籠(びく)を背負う二宮尊徳の記事が掲載されていました。



(日本最古=1924年建立の尊徳像がある豊橋市立前芝小学校の話)

このように全国には1000体以上の二宮尊徳の銅像があるそうです。本校の二宮尊徳像がいつ設置されたものかはわかりませんが、おそらく馬淵先生の本校の子どもへの「願い・思い」が込められているものと考えます。

小学部 春の交通安全教室

小学部 田中 孝和

4月20日(金)に交通安全教室が行われました。一般の小学校では、小学1年生と4年生で行われるものですが、本校は少人数の良さを生かし

て毎年全学年で実施しています。

小学生の事故の統計では、自転車の運転中と歩行中の事故が一番多いです。そのような事故に遭わないために、安全について認識を深め、交通に気をつけて、安全に歩行したり自転車に乗ったりすることは、とても大切なことです。

そこで、前半では、自転車の安全点検の仕方や自転車の運転で気をつけることを学び、後半で



は、模擬信号機を設置して、交差点を曲がってくる車に気をつけ、手をあげて安全に横断歩道を渡る練習をしました。

ご家庭でも良い機会ですので、交通安全についてお子さんと話し合ってみてください。

幼稚部 春の遠足

幼稚部 最上 裕美

4月20日(金)衣笠山公園に遠足に行きました。当日はとても暖かい日でした。すみれ組の幼児は今回も隊長、元気に学校から出発。衣笠神社でたんぼ組の幼児3名と合流し、先生やお母さんと手をつなぎ、がんばって頂上まで歩きました。

頂上の展望台から、「おーい！」と大きな声で遠くに呼びかけました。

その後お待ちかねのお母さんが作ってくれたお弁当とお菓子の交換。うれしそうに「はい、どうぞ」と交換をして食べていました。それから「鬼さん、鬼さん、何色ですか？」とみんなで上手に言って「色おに」を楽しみました。タッチされて鬼になっても、うれしうでした。



帰りはたんぼ組は衣笠神社で解散、すみれ組はお姉さんなので、もう少しがんばって学校まで

歩いて戻りました。たんぼ組は初めての遠足、すみれ組の幼児は隊長、みんなそれぞれよくがんばりました。

連休明け・梅雨を迎えるにあたって、食生活で気をつけること

栄養教諭 上村 仁美

楽しみにしていたゴールデンウィークも終わり、これからは、色々な行事によって疲れもたまる時期でもあります。今回は、連休明けの生活リズムの整え方や、これから梅雨の時期の食生活のポイントをご紹介します。

まず、規則正しい生活リズムの整え方ですが、基本は「早寝」「早起き」「朝ごはん」です。まず、「朝ごはん」を食べる習慣が身に付いていない人は、寝る時刻や起きる時刻、夕食や夜食などの時間を見直して、まずは朝起きて何か口に入れるところから始めてみましょう。

次は、梅雨の時期の食生活です。春から夏へ、梅雨はまさに季節の変わり目。私たちの体の働きも夏に向けて変化していく途中です。この時期は湿度が高くじめつとした日が続くかと思えば、肌寒い日もあったりと日ごとに寒暖差があるのが特徴で、体調管理も難しい季節といえます。冷えやだるさからくる不調は、毎日の食事のちょっとした工夫から予防することができます。基本は、色々なものを組みあわせて主食・主菜・副菜がそろったバランスの良い食事を心がけること。いくら暑い日でも冷たい飲み物や食事だけでなく、季節の食材を使った温かい食事や汁物などを取り入れることも大切です。食欲がないときは、お酢や梅干しなど酸味や、生姜やにんにくなど薬味を利用したおかずを取り入れると胃腸の不調予防や、食欲増進などに役立ちます。給食でも食欲を増すための献立も取り入れています。気になる献立がありましたら、お尋ねください。

